

令和7年3月31日

令和6年度 港特別支援学校 学校経営計画報告

港特別支援学校
校長 岡戸良雄

令和6年度は教育活動が感染症流行以前にほぼ戻ることができた。学校行事も集団での活動ができ、生徒同士のふれあいやコミュニケーションが復活した一年であった。

一方、近年地球の温暖化が進行しつつある中、教育環境の整備が大きな課題となった一年である。5月上旬から気温が上昇して教室内の暑さ対策が喫緊の課題となった。施設の老朽化により、抜本的な解決には至らなかったが、冷房機器を急遽導入することで酷暑の時期に対応することができた。

学校運営連絡協議会からの提言を受けて、これまでの教育活動を振り返り、次年度に向けて生徒一人一人にとって「安心で安全」な教育活動を行う。

項目	今年度の目標	【達成度】 ◎十分達成 ○ほぼ達成 ●未達成 ▲その他
【学習指導の充実と指導力の向上】	シラバスと学習指導要領に基づいた指導計画を立案し、計画的かつ根拠に基づいた見通しをもった指導を実践する。	◎ 各教科にてシラバス作成
	生徒の実態把握と既習内容を踏まえたつながりを重視した学習を実践する。	○
	ICT 機器を活用して、変化の速い社会への対応する学習活動の充実を図る。	◎ 一人一台端末以外の機器活用が進む
	地域資産を活用し、社会に即した題材を活かした学習活動を展開する。生徒の学習意欲を高め、社会で生きぬく活力の向上につなげる教育を推進する。	◎ 校外での活動展開が再開。出張販売や清掃活動実施
	指導案を作成し授業研究を実施することで、時代に即した指導力の確認を行い、指導力向上に努める。	○ 年次研修対象者を指導教諭にて進行管理と指導の実施
	全校研究に取組み、個々の教員の専門性や授業力向上を目指す。研究の成果を年度末に発表する。	◎ 成果を全校研究会開催で共有

【生活指導、安全指導の充実】	登校から下校までの様々な事態を想定し、生徒の安全を最優先とした指導体制の構築し、環境を整備する。	○ 引き続き安全に関する指導の実施
	様々な災害時を想定し、生徒の安全が確保できる環境整備のため、校内環境整備に努め、防災教育の充実を図る。	○ 港南地区総合防災訓練参加、高台避難訓練実施
	危機管理マニュアルを随時更新して危機管理体制を整備する。実効的な各種訓練を実施し、生徒の安全を守る防犯、防災体制を整える。	○
	医療的ケアや様々な健康に関する課題に対応する体制整備とマニュアル整備する。	◎ 非常勤看護師の安定的配置ができた。
【相談機能の充実】	生徒に関係する職員が効果的に連携し、生徒の不安や悩みに寄り添い自らの心と向き合い、社会参加への意欲を高めるための指導を行う。	○ 担任→学年主任→管理職の組織的対応
	全ての教員が生徒からの、些細な言葉や変化に注意を傾け、青年期特有の心の変化に寄り添う指導の実現を図る。	○ 外部専門員（心理職）との連携
	いじめアンケート等の取組みから状況を把握して課題を未然に防ぐとともに、必要に応じていじめ対策委員会にて対応する。	◎ 懸案事項発生時には速やかに対策委員会を開催して対応
【生徒を理解した指導の充実】	生徒の実態把握を進めるとともに、外部専門家を協同した各種アセスメント等を活用して根拠ある指導の充実を図る。	○ 担任と外部専門員との連携実施
	個人面談等において、個別指導計画や生活支援シート等のツールを活用し対話を深め、保護者意見を把握する。	○ 必要に応じて担任以外の進路専任が参加するなど、課題に対応
【進路指導、センター的機能の充実】	生徒の希望や保護者の要望、障害や適性に応じた進路選択・決定を行う。	○ 進路指導部と各学年の連携。学年担当進路専任がきめ

		細かく対応した
	進路だよりや保護者研修会を活用し、進路に関する情報の発信を充実させて生徒の希望が叶う進路指導につなげる。	○
	進路先、各行政区、医療機関との密接な関係づくりを推進する。	○ コーディネーター、進路部が個別に対応。ひつように応じて随時ケース会議開催
【教育活動を行う上での環境整備】	教職員の働き方を見直し、効率的な教育活動を行う職場とする。	▲ 働き方の見直しを継続中
	校務全般における ICT 活用を推進して校務の効率化を図る。	○ ステップ 3.0 に伴い、校内掲示板の改定
	O J T が適切に機能する組織づくりを行う。	○ 次年度はチューター役の教員を指名
	各種マニュアルを適宜見直すことで、実効的かつ効率的な学校組織の構築を目指す。	○
	教職員全員が服務規律の徹底を実現する。コンプライアンスの徹底。服務事故、ハラスメント行為の根絶を図る。	▲ サービスゼロを目指して指導継続

【令和 6 年度の課題と令和 7 年度の対応】

（１）環境整備の改善

・教室・トイレ・廊下・掲示物・教科棚の環境整備と改善を月 1 回実施する。特にトイレのブザーについては週 1 回点検を継続する。

（２）室内環境の改善

・各教室にはエアコンの増設（窓据え付けタイプ）、エアコン設置不可の場所（体育館）は冷風扇を稼働させて学習環境の改善を図る。

【学校運営連絡協議会から学校への提言】

・情報発信については、学校HPは自らアクセスしないと見ない。Xは見る機会が多い（修学旅行の写真

は見る)。一目見てわかる情報はよい。文字の書き方も吹き出しなどの工夫があるとよい。

- ・学校評価アンケートの時期を前倒してできたこと、実施法を変えたのがよかった。評価結果の分析も早い時期にできているのはよいと思う。
- ・学校の取り組みに対する評価は全体的に高い。ネガティブにとらえる必要はなく、前向きに進んでいくのが大事。課題や問題点はまとめて取り組むことが大切である。
- ・アンケートの自由記述は項目内でも、(+) 感謝など、(△) ポジティブな提言、(－) 批判的ネガティブな内容、に分けて集計する方がよい。
- ・ICT 研修は3層モデルで考えるのがよい。第1層：ICT が苦手、第2層：そこそこ使っている、第3層：かなり使っている。ICT 以外でもこの分類で研修は組んだ方が「効率的」。それぞれの層に合った研修を準備して受講する人自身に「どれに参加するかを選んでもらう」ことも一つの手立てとなる。

【学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項】

(1) 情報発信の工夫

- ・発信の回数に重きを置くのではなく、タイミングと内容を重点とする。
- ・受信する立場に立って内容を精査して発信する。(発信するプラットフォームは複数用意する)

(2) ICT を活用した授業改善

- ・ICT 機器の活用による学習効果を測定して改善を図る。
(興味関心、客観的な情報、繰り返しによる定着度など)
- ・ICT 活用する教員側の研修については学校運営連絡協議会からの提言にあるように、必ずしも一律でなく、複数の層で研修を実施することも検討する。

(3) 教職員の働き方改革

- ・教職員の職務遂行における意識向上を図る。
- ・デジタル活用の推進。データ共有化の徹底。
- ・自己の職務分担を意識して「職務の見える化」を推進。主任教諭、主幹教諭は進行管理(マネジメント)を実施して職務の属人化を廃止する。